



## 《2017年度 スローガン》

## 夢をカタチへ

仲間の幸せな未来に向け  
自ら気づき、動き出そう

中央執行委員長  
竹田 玄明



## 方針策定にあたり

私はセールス当時、年末も押し迫った12月に、3週間ほどの入院を経験しました。セールスにとっての12月は、四半期の締め月のため販売台数に追われ、過去販売したお客様のアフターサービスや年末のご挨拶を兼ねたカレンダー配り、年賀状の作成や翌年の年初展示会のDM作成等に奔走し、猫の手も借りたいほどの季節です。もちろん、セールスのみが忙しいわけではなく、アフターセールス部門やスタッフ部門の方々も残業を余儀なくされ、期限に迫られた業務に気を遣う等、全職種が東奔西走は当たり前です。そんな中、私の周りの仲間は、職種、先輩後輩に関わらず、私が留守の間に業務を分担していただきました。もちろん、それぞれが自身の仕事を抱えながらです。上司や先輩、同僚や後輩の大切な時間を奪ってしまった悔いと、私の代わりにお客さまの対応をしていただいたことに対する感謝の気持ちは今でも忘れることはありません。そして、今思えば、その時期は私が労働組合の支部執行部を志した時期とちょうど重なります。それまでの私は、周囲への気配りや目配りに注意を払っていたつもりですが、会社や仲間のためというよりは、どちらかと言えば自身のために仕事をしていたように感じます。しかし、生まれて初めての入院経験は、それまで生かされてきたことや、過去の実績が自身一人の力で成し得たものではなく、会社の看板や周囲の環境、仲間の協力や運に恵まれてこそ積み上げられたものであると私に教えてくれました。言うまでもなく、人は一人では生きていけません。必ず誰かと支え合って生きています。そして、周りに感謝できる人は、誰からも感謝されるものです。一方、自分のために周りの人が動くことが当たり前だと考えている人は、本当に自身が困ったときに助けてくれる人は少ないでしょう。私にとって、労働組合の活動の起源がここにあると気付かされたのは、恥ずかしながら10年前のその時かもしれません。

さて、今やディーラー業となって11年目に突入した私たちは、5つの財産（大切なお客さま、自信をもってお勧めできる素晴らしい商品、士気の高い従業員、高い知名度とブランド力、全国のサービスネットワーク）のもと、100年の歴史を刻んできました。創業の精神を守りながら、次の100年を見据えた明確なビジョンとして明文化された「企業理念」にもある通り、これからの私たちヤナセに求められるものは、商品のみならず、サービスと技術を真心込めて提供すること

にあります。サービスや技術を今まで以上のハイクオリティーでお届けすることは、今まで以上に組織として一人のお客さまに対応する重要性が増します。通常、個の集合体である組織が強くなるためには、個々の力を増すことが重要だと思いますが、例え個の力が弱くとも、仲間同士が手を携えて協力し合えば大きな力になるのではないのでしょうか。そう、幼少期に誰もが読んだレオ・レオ二作の「スイミー」のように。絵本の中の「ぼくが、目になろう」のセリフはあまりに有名ですが、この言葉には、前述した“小さな力を結集して大きな力を出す”という以外に、“人にはそれぞれ個性と役割がある”という隠れたメッセージが込められているそうです。

私たちヤナセ労働組合が提唱してきたことは、これらと符合します。仕事にはそれぞれ役割があり、その人にしかできないことが必ずあります。私にしかできないこと、私だからできることをそれぞれがそれぞれのステージで誠心誠意努めれば、私たちの未来は光り輝くでしょう。ただし、仕事や未来に光明を射すのは、他の誰でもなく私たち一人ひとりであることを忘れてはなりません。天敵であるシャチやオットセイが待つ大海原に最初にダイブする“ファーストペンギン”は、誰かの行動を待つのではなく、自ら危険を顧みずに動き出し、獲物を獲ることで知られています。私のために組合が何をしてくれるのかではなく、仲間の幸せと会社の発展、そしてもちろん組合ビジョン実現のために私に何ができるのかを常に考え、自分事として物事に取り組めるヤナセ労働組合でありたいと願います。



## 重点目標 ①

## “私たち組合員はこうありたい”を実現します

## 完遂のための具体的活動

組合ビジョン“私たちのありたい姿”を表す7つのワードは、何れも言葉としては簡単なものばかりです。「仲間を大切にすること」、「常に明るくあること」、「物怖じせず言動すること」、「プロフェッショナルであること」、「夢を持ち続けること」、「家族を大切にすること」、「誠実であること」これらのワードは、全組合員を対象としたアンケートから導き出されたもので、私たちがヤナセの従業員として、最も大切にしていることを明文化したものです。中でも私たちの一番の強みである、との集計結果が、「常に明るくあること」、次いで、「プロフェッショナルであること」でした。逆に、最も弱みとなる項目は、「誠実であること」でした。強い部分を伸ばし、弱い部分を補うためにスタートした運動が、「ありがとう運動」なのです。

組合ビジョンの実現へ向けてスタートした「ありがとう運動」ですが、本活動を始めてから早4年が経過しました。支部毎に本活動の濃淡が明らかになりつつある今、次なる活動のきっかけづくりの一つとして、昨年度、組合ビジョンのロゴを作成いたしました。このロゴは、社業である自動車の車輪を表す“輪”と人の“和”をイメージし、7つのビジョンワードを7個のブロックで表現しました。更に、輪(和)の中には、ヤナセ労働組合のミッションである、「組合員の“誇り”、“夢”、“喜び”」を英語表記しました。このロゴをあらゆる活動の場面で利用し、組合ビジョンを常に思い描けるよう訴求して参ります。



ヤナセ ワーカーズユニオン

組合ビジョン実現に向けた今年度の具体的活動は、組合員からいただいたアイデアをカタチにすべく、「ビジョン実行局」で検討を重ねます。また、今年度も各支部に「ビジョン実行委員」を選任し、支部毎にオリジナルの活動を模索する一方、「ビジョン実行局」としての活動にも注力します。ビジョンの実現は決して急ぐものではありませんが、常に私たちの心に留めておく必要があります。職場の仲間のプライベートが充実すれば、職場においても輝きが増すことは自明であり、一人でも多くの仲間が、毎日充実して会社に行きたくなるような環境を整備するために、私たちのビジョン実現は欠かせません。また、私たちのありたい姿の7つのワードは誰もが生まれながらコアバリューとして持ち合わせているものではないでしょうか。日々の仕事に追われ、ビジョンから意識が遠のくことは誰にでも起こりえます。しかし、私たちは当たり前のことを当たり前でできる環境づくりやきっかけづくりのために、心を入れてビジョン浸透活動に邁進しますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願い致します。



## 重点目標 ②

## 組合員とその家族の日々の小さな幸せを応援します

## 完遂のための具体的活動

## ● 経済的地位の向上と労働条件の維持・改善に取り組みます

賃金処遇の向上へ向けた各種協議、労使協議会を開催します。

## ● 各種制度の改善や運用強化に取り組みます

時代に応じた制度の検証と改定案の作成、制度運用強化へ向けた働きかけを強化します。

## ● ワークライフバランスの実現に努めます

一般的に、ワークライフバランスとは「働く人が、仕事上の責任を果たすと同時に、仕事以外の生活でやりたいこと、やらなければならないことに取り組める状態」と定義されています。仕事とプライベートのどちらを疎かにしてもいけないのです。しっかり働いて、しっかり休める110日を謳歌するために、私たちの目標管理や仕事の在り方(働き方)を検証し、業務過多にならぬよう努めます。労務管理の抜本的改革を推進します。

## ● 福利厚生活動を充実させます

組合ホームページや情宣物を通じた契約宿泊施設やレジャー施設の利用促進、地域・期間限定企画、本部・支部ごとのイベント開催、カフェテリアプランの利用を促進します。

## ● 引き続き、社会貢献活動に取り組みます

リングプル収集による車イスの寄贈、エコキャップ収集と外貨コインの募金による世界の子供たちへのワクチン支援、地域小学生や中学生を対象とした課外授業の開催、普通救命講習資格取得による緊急対応能力の向上を目指します。

## ● 組合員のライフプランのサポートを強化します

ろうきんによる総合金融サービスの提供、投資教育セミナーの実施、組合員の生活に密着した「WAY通信」を発行します。

## ● 法令遵守を徹底します

懲罰事例の共有による再発防止、就業規則や組合規約を遵守します。

## ● 財政活動の管理と運用を徹底します

予算の進捗と執行管理、資産管理と運用の強化、円滑な会計処理業務のためのインフラ整備を実施します。

## ● 会社との協議の進捗や報告事項を組合員へタイムリーにお知らせします

機関誌(つどいNET)の発行と、全国での職場委員会や職場集会を通じて展開します。

## ● 「未来フォーラム」(他労組交流)の活動を自労組に取り込み、活動を昇華させます

単なる他労組交流の枠を超え、とことん人と向き合い、私たちを取り巻く社会や未来のために活動する「未来フォーラム」の理念を組合員と共有し、本活動へ参画いただくために、あらゆる場面で周知します。

## 重点目標 ③

## 組合員の幸せ抜きに、会社の発展はあり得ない

～組合員一人ひとりが自主自立して、自ら動き出そう～

## 完遂のための具体的活動

## ●労使協議会や労務委員会を全国で開催します

地域で抱える課題解決に向け、全国で支部労使協議会を開催します。困難な問題も諦めずに経営陣と膝を交えた協議の場を設けます。

## ●安全衛生活動を推進します

安全衛生委員会の開催を通じ、労使が定期的に協議する場を設けます。ストレスチェックが2度目となる今年度、更なる受検促進を図るとともに、ストレスの予防を呼びかけます。

## ●労務管理を徹底します

本部三役による人事部を通じた管理職者への教育促進のみならず、組合役員自らが労務管理について学び、職場での運用体制を是正します。

## ●地域独自の社会貢献活動に取り組みます

本部主導の社会貢献活動以外に、地域オリジナルの活動を模索し実行します。

## ●魅力ある組合活動を具現化します

昨今、日本では労働組合の組織率が20%を切る状態に陥っております。更に、組織化されている労組においても「組合が何をやっているのかわからない…」という声はよく耳にします。労働組合に魅力があれば、このような意見が出ることは無いでしょう。私たち「ヤナセ労働組合」は大丈夫か、と自問自答すると、残念ながら一部の組合員において、上記の意見と同様なのかもしれません。前述の通り、企業によって労働組合の有無はあれど、パナソニックの創業者、故松下幸之助は当時の松下電器産業労働組合の結成時、結成大会に招かれないまま現地へ出向き、以下のように述べたそうです。『労働組合の誕生は、真の民主主義に基づく新しい日本を築く上で歓迎すべきことである。正しい経営と、皆さんの考える組合とは必ず一致すると信じる。ともども力を合わせて日本の再建に邁進していこう。』と。会場からは割れんばかりの拍手が起こったとのこと。

ヤナセ労働組合が結成から69年目を迎えた今も昔も、労使は会社の両輪であり、互いを尊重し合う立場であることに変わりはありません。労働組合が会社と組合員のどちらからも認められ、頼られるためには、課題の本質や今何が必要か見極めて活動をすることが求められますが、同時に、私たちの活動そのものに魅力が有ると感じるか、無いと感じるかは、組合員一人ひとりの“志(こころざし)”次第だとも感じます。各自が組合活動を自分事として捉え、全ての活動は組合員とその家族の幸せと会社の発展を実現するためであることを念頭に置き、あらゆる活動へご参画いただけるよう働きかけを強化します。

## ●女性を始めとする、ヤナセにおける数的マイノリティーの方々へのサポートを充実させます

女性組合員が主体となってミーティングを開催、ハラスメント(セクシャル、パワー、マタニティ等)を未然に防ぐために、職場でのコミュニケーションの機会を創出します。思いを声に出せない組合員の声を聴きます。